

年頭のご挨拶



(一社)富山県測量設計業協会
会長 市 森 友 明

新年あけましておめでとうございます。

令和3年の新春を迎え、協会員の皆様方をはじめ日頃から当協会の運営に対して、ご理解とご支援を頂いております関係機関の皆様方のご健勝を心からお慶び申し上げます。本年はコロナ禍において迎える新年であり、例年と多少雰囲気異なっておりますが、延期された東京オリンピックもあり、無事開催されることを祈ると共に、それを契機に世界、そして日本の経済状況が力強く回復していくことを期待いたします。

また昨年を振り返りますと、令和2年7月豪雨により九州をはじめとした各地で大きな災害が発生しました。内閣府の発表によれば、1時間降水量は鹿児島県鹿屋で109.5ミリ、24時間降水量は496ミリにも達する猛烈な豪雨でした。また全国で84名（内閣府11月2日発表）もの尊い人命が失われました。特に熊本県の人吉市における球磨川の氾濫による浸水深は、国土地理院によると最大9メートルにも及んだと想定されています。想定を超える外力の発生が頻発化し、それにより想定を超える被害が毎年発生している状況は、我々日本人にとって未知の経験かもしれませぬ。

このような状況において、政治動向にも注目すべき事象がありました。熊本県球磨川において中止になった川辺川ダム事業を熊本県蒲島知事が、容認したことです。蒲島知事は2008年の知事選挙当選後、川辺川ダム建設計画の白紙撤回を表明し、翌年の2009年に当時の民主党政権が中止を決定しました。その当時は大型公共事業の見直しが民意を得る時代であったと覚えています。蒲島知事もそのような時流の中で選出された知事として上記のご判断をされたと想像します。しかし、今回の甚大な災害を目の当たりにして、当選当時の方針を撤回されたことは、

ご英断であり、政治家として勇気ある行動であると思います。頻発する災害により大型公共事業に対する世論に変化が生じつつあることを象徴する出来事であり、測量設計に携わる者としても身の引き締まる思いでした。川辺川ダムの整備効果を、定量的なデータをもってお示しされた国土交通省のご関係者には心より敬意を表したいと思います。

富山県におきましては、近年目立った災害はございませんが、いつ起こっても不思議ではない状況であります。このような状況に備えるため、近年は「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」によって、様々な対策事業が行われてきており、確実に災害への対応力は高まっているだけでなく、より一層この事業を継続する必要性が高まっています。我々協会員はこのような地域防災力向上において、測量・設計分野において、お役に立ちたいと考えております。

当協会の話になりますが、私は5月に会長に就任し、コロナ禍ではありましたが、協会員48社を訪問させていただきました。感じたことは、協会員各社がそれぞれの地域に根差した活動を行っており、その地域には不可欠であること、またそれ故に担い手の育成が急務である、という事実でした。それ以来、県内の民間学校と情報交換をさせていただき、測量士の育成を担う専門学校の設立について協会としてできる範囲で協力させていただいております。是非とも測量士養成の専門学校が設立され、卒業生が協会員企業に就職し、社会インフラ整備の担い手になっていくことを心から願ってやみませぬ。

最後になりますが、今後とも当協会並びに会員企業に変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしく願いいたします。